

風土記の丘の花だより²⁴⁹

今、そしてこれから見られる植物(2024年8月21日)

15日夜の雷雨には驚かされました。地域の夏祭りは中断ののち、中止になり残念でしたが、久しぶりのお湿りで、草木はさぞ喜んでいただことでしょう。でもそれもつかの間、また酷暑が戻ったかと思うと、またまとまった雨。少しは暑さもやわらいだ・・・こともないかな？

いよいよ、咲いている花が少なくなってきました。そこを何とか探してきたので今回も4つ紹介します。(小早川家では、ナツズイセンがまだ咲いていますよ)



少し花のピークは過ぎましたが、ヤブミョウガの白い花が咲いています。早春にハクモクレンが咲く所を右に見て、左側の斜面に多く生えています。ヤブという名前のようにすこし薄暗いところに群生します。もう青い実もできているので、両方を同時に楽しめます。この植物、名前にミョウガと付いていますが、ミョウガの仲間ではなくツユクサ科の植物です。でも葉や茎の感じは、確かにミョウガに似ていますね。(ちなみに、名前がよく似たハナミョウガはミョウガと同じ仲間です)



草むらの中でこんなものを見かけたことはありませんか？たまにスマホの画像を見せられて「この変なものは何ですか」と質問されます。これはウラシマソウの実です。春に、花の真ん中から長い糸のようなものが伸びて、ちょっと不気味な雰囲気の花を咲かせるサトイモ科の植物です。その花の中の付け根部分が大きくなって、こんな実になるのです。この実は秋が深まるころ、真っ赤に色づき、再度みなさんを驚かせてくれます。野山には不思議なものがあるものですね。



これは花ではありませんね。でもこの季節、花が少ないので、お許しください。これはヒユ科のイノコヅチ(今はイノコズチという表記の方が多いようです。)の節にできる虫こぶです。この様子がイノシシの膝のように見えることが、名前の由来です。小さなハエの仲間が卵を産みつけると、その部分が大きく膨らんで虫こぶになります。イノコヅチはこれまで、ヒカゲイノコヅチとヒナタイノコヅチに分けていましたが、最近は分けずに、イノコヅチと言う事が多くなっています。



ミソハギが開花しましたが、「開花しました」と言うことが憚られるような咲き方です。昨年、水を切らしてしまい、地上部は完全に枯れてしまいました。でも根は生きてくれていたとみえて、今年も芽を出してくれました。しかし、この日照りです。いつもなら、お盆には満開なのですが、今年は写真のように、たったこれだけです。茎いっぱい花が咲くとミソハギらしく見えますが、これでは何の花か分かりにくいですね。谷山家住宅の庭で撮影しました。

松下